



# 日耳鼻医会 FAXニュース

平成27年5月13日発行 第226号

## 教育、文化そして『黒』の県、 鹿児島へ是非足をお運び下さい

かごしまフォーラム2015 会長森山一郎  
「かごしまフォーラム2015」の案内冊子がすでにお手元に届いていると思いますが、プログラムを覗いて頂ければお分かりのように、非常に魅力的な内容になっています。一般演題はなく、「アロマ」「禁煙」「患者トラブル」「医療経営」「扁桃」「アイスマン」「焼酎」という話題の講演のみで構成されています。また、職員家族向けには「コミュニケーション」「化粧法」といった実践的な講座も準備しています。

鹿児島県の観光交流局は、かごしまの「黒」を前面に出し鹿児島県を売り出しています。黒毛和牛、黒豚、黒鶏、黒ごま、黒酢、黒砂糖、薩摩黒切り、黒薩摩焼、クロマグロ、黒砂、黒松などなど、何でも黒を付けると鹿児島特産になるような印象です。確かに、鹿児島を県外にPRするにはこれら特産品にくわえ桜島、霧島、開聞岳、錦江湾、屋久島、奄美群島など風光明媚な自然を強調すれば分かりやすいのですが、裏を返せば自然や特産品以外に鹿児島県をアピールするものがないとも言えます。

しかしながら、本当の鹿児島の魅力というのは、幕藩制度の頃からある「郷中教育」の流れを汲む、人材を育てることを第一とする教育熱心な県民性にあり、そこから生じた豊かな文化であると思います。郷中は「ごじゅう」あるいは「ごじゅ」と読みますが、郷中教育とは、薩摩藩独特の教育制度です。7歳から24歳ぐらいまでの武士階級の青少年が団体(郷中)を編成し、特別の施設も教師も公的補助もなく、薩摩武士たるべき人間育成・人格形成を目指して、自発的、継続的に行った学習活動のことです。その郷中教育から輩出された偉人達が明治維新の原動力となりました。

さて、そんな鹿児島の教育・文化から醸し出された今回の「かごしまフォーラム」ですから、先に述べたような魅力的な講演・講座の内容となっています。また、懇親会では、ピアノ演奏やアトラクションも企画され、さつま流のおもてなし文化を味わって頂きたいと思っています。

## ◇平成27年度定時代議員会・総会予告

日時：平成27年6月28日 午後1時～

会場：ベルサール八重洲(東京駅近く)

(中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル2F・3F)

詳細は6月のFAXニュース227号でお知らせ致します。議案書は関係者に6月に発送予定です。

## ■総合診療医の養成カリキュラム決定

専門医機構、指導医要件も  
2017年度から始まる予定の新たな専門医制度で、総合診療専門医を養成するための枠組みが決まった。日本専門医機構が4月6日の理事会で、研修の到達目標などを定めた「総合診療専門医専門研修カリキュラム」や指導医の要件、研修医療機関における「プログラム統括責任者」の要件などを了承した。同日の決定内容を基に今後、研修基幹施設を対象とした研修プログラム整備基準、申請のための関係書類の様式などを具体的に作成する。

研修カリキュラムは、到達目標と経験目標で構成。このうち到達目標は▽人間中心の医療・ケア▽包括的統合アプローチ▽連携重視のマネジメント▽地域志向アプローチ▽公益に資する職業規範▽診療の場の多様性―を「6つのコアコンピテンシー」として明記。それぞれに「知識」「技能」「態度」に関する複数の個別目標を設定し、達成が必須の目標は「A」、努力目標は「B」として示した。

一方、経験目標は▽身体診察及び検査・治療手技▽一般的な症候への適切な対応と問題解決▽一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント▽医療・介護の連携活動▽保健事業・予防医療―の5つで構成。経験を求める身体診察手技や検査・治療手技、疾患・病態、活動などについて具体的な名称や内容を明示した。

## ■遺伝子注射で難聴改善

遺伝性難聴のマウスの内耳に遺伝子を入れ、聴力を改善させることに成功したと順天堂大などのチームが発表した。同大の池田勝久教授(耳鼻咽喉科)は「遺伝性難聴の根本的治療法の開発につながると期待できる」と話している。チームは難聴の原因遺伝子の内、最も患者の多い「GJB2」という遺伝子に注目。この遺伝子に変異したマウスは「コルチ器」が形成されないことを発見した。そこで遺伝子を変異させたマウスが生まれた直後、内耳にGJB2遺伝子を注射。10～12週間後に音を聞かせて脳波を調べると、注射をしないマウスに比べて最大4割ほど小さい音でも聞き取れるようになり、コルチ器も出来ていた。

## ■哺乳類の鼓膜、下顎から進化 耳の起源、爬虫類とは別

耳の鼓膜は人を含め哺乳類では下顎から進化して生まれ、上顎から生じた爬虫類や鳥類とは起源が異なると

する研究結果を、理化学研究所や東京大などのチームが4月22日、英科学誌ネイチャーコミュニケーションズに発表した。

チームの武智正樹・東京医科歯科大助教(元理研研究員)は「約3億1300万年前に共通の祖先から哺乳類と爬虫類が枝分かれた後に、それぞれ独立に鼓膜を獲得したことが分かった」と話している。

チームは、動物の耳ができる過程が進化の道筋を反映していることに着目。下顎ができるのに必要なタンパク質が働かないようにしたマウスの胎児は鼓膜もできないことを発見した。

## ■赤外線でがん細胞を攻撃

米NIHで臨床試験へ  
米国立衛生研究所(NIH)の小林久隆主任研究員は5月5日、近赤外線を使った舌がんや咽頭がんなどの新たな治療法の臨床試験を、米大学と共同で始めることを明らかにした。新薬として承認を目指す米バイオベンチャーも参加し、3～4年後の実用化を目指す。

がん細胞の表面に結合しやすい抗体に、特定の波長の光で活性化させる化学物質をつなげた薬剤を開発。患部に薬剤を注射した後、近赤外線を当ててがん細胞だけを壊すことを目指す。正常な組織を傷つけないため副作用が少ないと期待され、マウス実験で高い治療効果が示されている。

astellas

経口用セフェム系製剤  
日本薬局方 セフジニルカプセル、セフジニル細粒

【効能・効果】「用法・用量」「禁忌・原則禁忌」を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 アステラス製薬株式会社  
東京都中央区日本橋本町2-5-1  
【資料請求先】メディカルインフォメーションセンター 電話0120-189-371

2015年4月作成、89×127mm

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会  
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F  
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228  
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail [jimu@jenti.or.jp](mailto:jimu@jenti.or.jp)  
当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい